

様式 A 現代哲学（稲田）

科目にかかわる情報				
科目の 基本 情報	授業科目 (欧文)	現代哲学 Modern Philosophy		単位 2
	一般・専門の別・ 学習の分野	一般・人文・社会	授業形態・学期	講義・前期
	対象学生	MS-2, EC-2	必修・選択の別	選択
	担当教員・所属	稲田知己・総合理工学科情報システム系		
科目の 学習・ 教育内 容にか かわる 情報	基礎となる学問分野	哲学／倫理学		
	専攻科学習教育目標 との関連	本科目は専攻科学習目標「(5)工学倫理の学習や技術者倫理に関する特別講義を受講するとともに、広く技術者倫理の理解ができる」に相当する科目である。		
	技術者教育プログラ ムとの関連	本科目が主体とする学習・教育到達目標は、「(G) 技術者倫理の理解，G－1：倫理的・経済的および安全上の考察に関する理解を深め，技術者として社会に対する責任を自覚し，説明できること」であるが，付随的には「B－1」にも関与する。		
	授業の概要	現代の工学技術者・工学研究者にとって倫理教育は不可欠の教養となっている。今年度の「現代哲学」では，哲学・倫理学の根本問題を取り上げることによって，科学技術文明について考察を深めたい。		
	学習目的	この授業は，生命倫理をはじめとした現代哲学の諸問題を系統的に学習することによって，技術者として社会に対する責任を自覚する能力を身につけることを目標としている。		
	到達目標	1. 哲学者の思想に触れ，人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。 2. 現代科学の考え方や科学技術の特質，科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。 ◎人間性，教養，モラルなど，社会的・地球的観点から物事を考えることができる。		
履修上の注意		本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1 単位あたり授業時間として 15 単位時間開講するが，これ以外に 30 単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。		
履修のアドバイス		レポートが必ず課されるので，平素から新聞等を読む習慣をつけて，自分なりの問題関心をもつこと。		
基礎科目		倫理（1 年），工業倫理学（5）		
関連科目		工学倫理（専 1 年）		

授業にかかわる情報				
授業の方法		前期開講。簡便な哲学の教科書を使用するが，受講生自身と議論することによって授業をすすめていく。課題提出を求めて授業時間外での追加学習を求める。		
授 業 計 画	開講週		授業時間内の学習内容〔項目〕 (指示事項)	授業時間外の学習内容〔項目〕 (指示事項)
	前 期	1 週	● ガイダンス	報告書を書くための指示
		2 週	● 教科書第 1 章「自由」	
		3 週	● 同上	
		4 週	● 教科書第 2 章「歴史」	
		5 週	● 同上	
		6 週	● 教科書第 3 章「個と普遍」	レポートを書くための指示
		7 週	● 教科書第 4 章「科学の勃興」	
		8 週	● 教科書第 5 章「客観性」	
		9 週	● 同上	
		10 週	● 教科書第 6 章「弁証法」	
		11 週	● 教科書第 7 章「実存」	
		12 週	● 同上	
		13 週	● 教科書第 8 章「ニヒリズム」	
		14 週	● 同上	
		15 週	● 報告書／レポート作成の指示	
教科書，教材等		教科書：川原栄峰『哲学入門以前』（南窓社） 参考書：特になし		
成績評価方法		1 回のレポート（50%）。授業内容を確認する報告書（50%）。 再試験は実施しない。		
受講上のアドバイス		平常点・出席点は成績評価で考慮しないが，必ず授業時間数の 2／3 は出席すること。 遅刻については，授業に大幅に遅れてやってきた学生は欠課とするが，何回かの遅刻を 1 欠課とするという措置はとらない。		

ルーブリック							
	理想的なレベルの目安（優）		標準的なレベルの目安（良）		未到達レベルの目安（不可）		
評価項目 1	現代哲学の歴史的背景や重要性を理解し、その詳細を説明できる。		現代哲学の歴史的背景や重要性を理解し、その基本事項を説明できる。		現代哲学の歴史的背景や重要性を理解し、その基本事項を説明できない。		
評価項目 2	現代哲学が問題とする諸事項や諸概念を理解し、詳細に説明できる。		現代哲学が問題とする諸事項や諸概念を理解し、その基本事項を説明できる。		現代哲学が問題とする諸事項や諸概念を理解し、基本事項を説明できない。		
評価項目 3	公共心を持ち、他人や自分の独創性について詳細に表現することができる。		公共心を持ち、他人や自分の独創性について基本的に表現することができる。		公共心を持ち、他人や自分の独創性について基本的に表現することができない。		
評価割合							
	試験	報告	相互評価	態度	レポート	その他	合計
総合評価割合	0	50	0	0	50	0	100
基礎的能力	0	40	0	0	30	0	70
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	10	0	0	20	0	30